



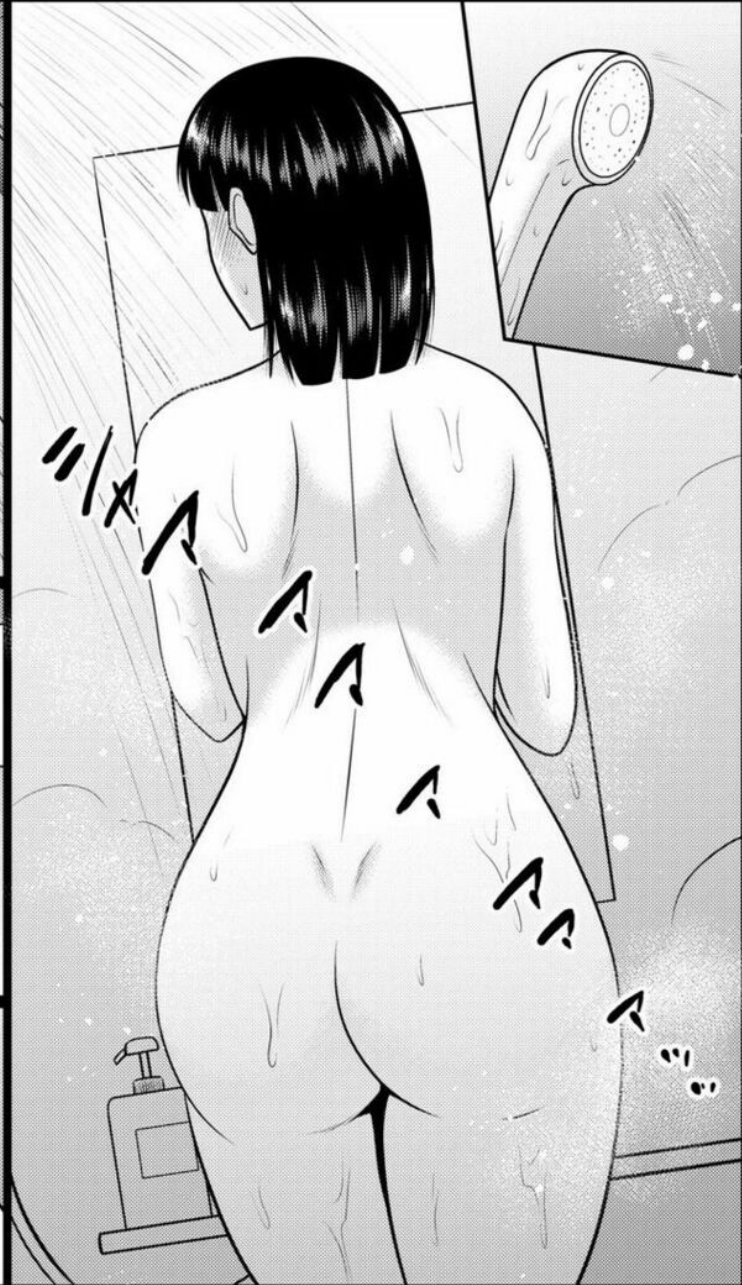
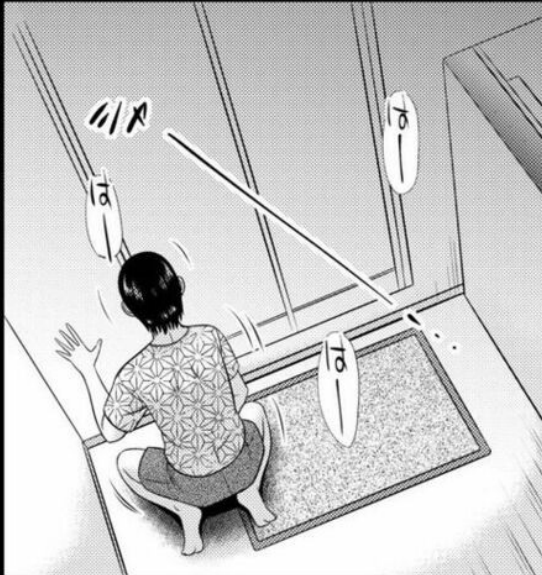
母の親友が僕の愛人になっただけ

富山桃哉

1

アシオナ NEXT







…なにしているの
はると
陽斗クン？



他人に
オナーシーンを
見られたあの場面に
なるだろう



自分の一番
恥ずかしい
思い出といえば…



うわあああつ！



とらうのも…

ただいま



しかも
母親の覗き見を
母親の友人に
見られるという
おまけ付き…

大学生になってまで
この夢を見るのは
トラウマになっているのも
さることながら…

それを思い出す
要因がすぐそばに
あるせいだ



おかえり
ハルトくん

僕はいま
その母親の友人
幸松怜香さんと
半同居状態にあるのだ



大学進学にあたり
一人暮らしを始める
ことになったとき…

いつも
ありがとうございます
でもこんなに
していただくか
なくても…

なに気に
してんのよ

心配した母親が
面倒を見るように
頼んだのが
レイカさんだった



それ以来
レイカさんは
ほとんど毎日
僕の部屋を
訪れている

遠慮しないで
頼って頂戴

時間なら
あるんだから

晩御飯作ったから
後で食べましょう

ははあ



手料理がおいしくて
ご飯代が浮いて
助かっているし…

とはいえ
邪魔かといわれれば
そんなことはない

バツ2で独身のせい
かやたらフットワークが
軽くてしょっちゅう
僕の部屋に遊びに来る



それより
なにより…





そういえばささく
覚えてる
子供のころ…

あんた
お母さんのお風呂
覗いてたでしょう？

え ああ
まあ…

あれは
レイカさんは
酔いつぶれて
寝てると
思ったから…

びっくり
したわよ

あのときは
そういう年頃
なのかなと思って
流してたんだけど…

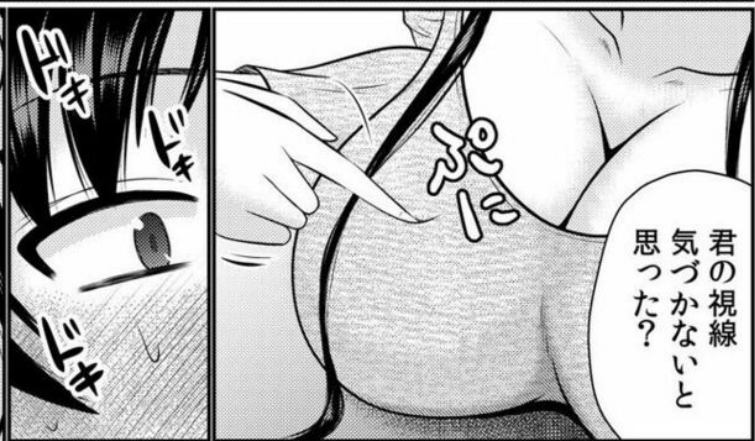
ハルトくんって
もしかして…

マザコン？

ただ
聞きたいのは…

まあそれは
別にいいのよ
人の趣味だしね

レイカさん!?







ほおおっ

がぜん
やる気に
なっちゃう……!



ああ……
そんな
激しくされたら……



うっ!

ああ……
レイカさん

でる……っ
でちゃいます……っ

うん



ふふ…
すごい出たわね
ハルトくん…

ドロツドロ…



……
レイカさん…



いっぱい
気持ちよくして
あげるわよ?!



そそれは...



ふふ...
こんなに大きく
しちやつて

体は
正直よねえ



ねえ
ハルトくん...
よかつたら
私と...

セックスして
みない?

す



じゃあ
同意ということ
でえ…

ハルトくんの
童貞
いただくわね…!

ああん…
入って
きちやった…っ
童貞卒業
おめでとう!

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ハハハ

ハハハ



レイカさん…

どお?
私の臆内
悪くないでしょう?



ふふ…
自信持っていいわよ
ハルトくん



ああ…



あなたの
おち●ちん
とつても素敵...

めちやくちや
気持ちいい...

長くて硬い
おち●ちんって
最高...

奥までズボズボ
突き刺さってきて...

はあ

はあ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ



ああ…

頭が混乱して…
意味が
わからない…っ

いったいなにが
どうなって
るんだ…っ？



いきなり
レイカさんと
セックスする
ことになって…

生あたたかくて
ヌルヌルした
ものが絡みついて…

これが女性の
おま●こ…

それで…



女の人の中が
こんなに気持ちいい
ものだったのか…っ



ああ…



もう
出そうなのね...!

あんっ
一段とかたく
なってきた...っ



いいわよ
ハルトくん
好きなので
出して頂戴...っ

ぜくんぶ
受け止めて
あげる...!!

おばさん
孕ませるくらいの
濃いザーメン...

いっぱい
頂戴...っ

ちゅ

ちゅ

ん



めちやくちや
気持ちよかった...

余韻で
ち●このうすぎが
収まらないや...







すごいわ
もう慣れたの
ハルトくん…!?

1676

アッアッ
アッアッ



めちやくちや
気持ちいい…っ

あん

あん

アッアッ

アッアッ

アッアッ

おち●ちんの
出し入れ
すごく上手よ…っ



ただ
無我夢中で…

わかん
ないです…っ

アッアッ

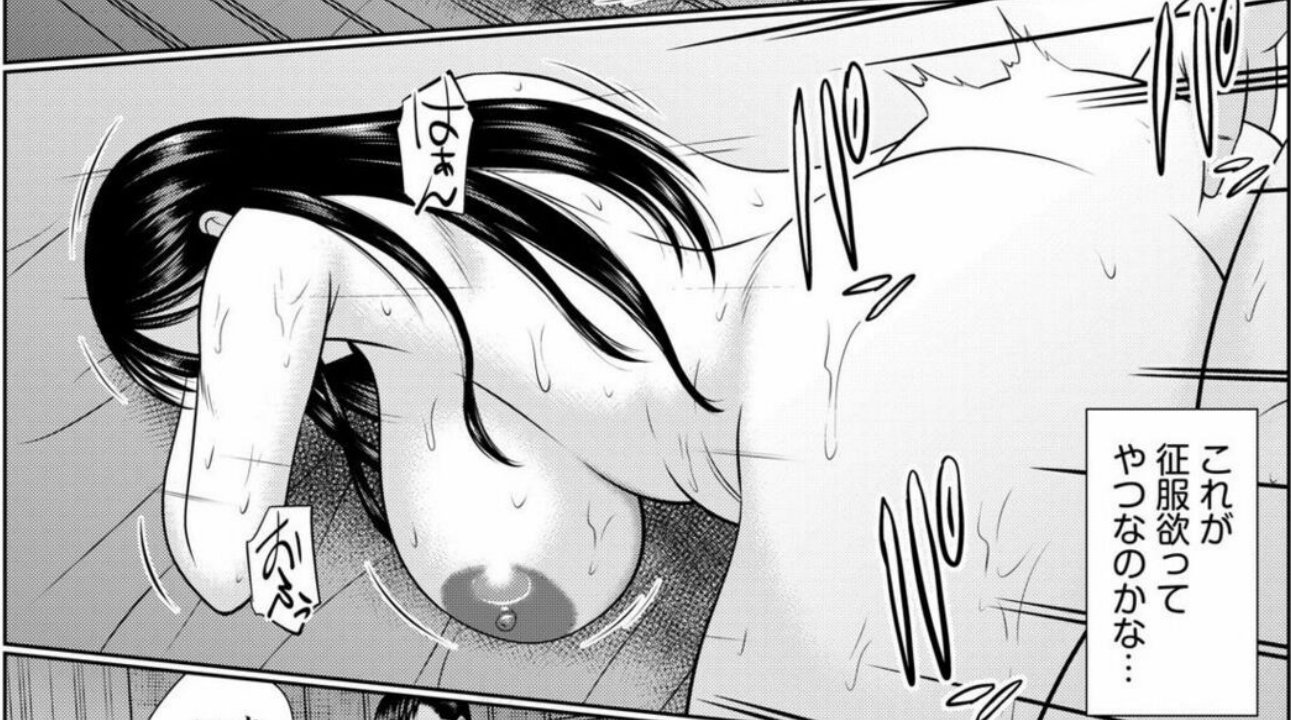
アッアッ



年上の女性が
僕のち●こで
感じるのを
見るのは…

めちゃんちや
興奮する…っ

うほSNR…



これが
征服欲って
やつなのかな…



あうん…
いいわよ
ハルトくん…っ

すいん
ら…っ



おほっ



これ絶対
童貞の
おち●ちんじゃ
ないわ…っ

私
すっごく発情
しちゃってる…っ

ごめんね
ハルトくん…
私もう
イクわ…っ!

ほおお…っ
オマ●コ
蕩けそうよ…っ

僕ももう
出ます…っ
一緒に
イキましよう
レイカさん…っ

イク…っ





こつして「僕たち」の新生活が幕を開けたのでした...

君の搾りたてのミルク頂戴ね!?

ああっ

でもそのまえに...

朝食の準備はもうできてるわよ

ざわ

ざわ

ざわ



母の親友が僕の愛人になった件(1)

著者 畠山桃哉
レーベル アシオナNEXT

- ★この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
 - ★本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。
-